

木造校舎、木造の公共建物の残るまち 八幡浜



はじめに

八幡浜市は名誉市民松村正恒氏が設計した国指定重要文化財日土小学校をはじめとした木造モダニズム建築と、時期を前後して地元の建築家が設計した木造の公共建築が、建築後50年以上の時を経過してもなお残っているまちです。

「形あるものはいつか消える、残るのは記憶だけだ」という言い方がありますが、わたしたちが暮らすまちに関しては、「形あるものが消えると、記憶も消える」と言えます。

八幡浜市民にとって松村設計のモダンな建物は見慣れたものであり、木造の校舎、木造の建物は人々の営みを思い出させるタイムマシンのようなものです。

これらの身近でかけがえのない建物を通じて過去を学び、市民の皆さんにこのまちで暮らす幸せを感じてもらうことが、誇りや愛着につながるものと思います。

日々の生活に根差した地域の宝を、市内外の方々に八幡浜市の文化遺産として見ていただきたい、そして、木造校舎、木造の公共建物の残るまち八幡浜は、建物もすばらしいが、そこに暮らす人々はもっとすばらしいと来訪者にも感じてもらいたいと考えています。

多くの方々が、心に残る宝物を探しに、八幡浜市に来ていただくことを期待しています。

八幡浜市長 大城 一郎



日土小学校
設計:松村正恒



川之内小学校
設計:松村正恒



長谷小学校
設計:松村正恒



旧図書館
設計:松村正恒
(今後、移築・保存改修を検討する)



中津川自治公民館
設計:松村正恒



日土東小学校
設計:木村保一



旧白石和太郎洋館
設計者不祥



菊池清治邸
設計者不祥
(今後、活用等を検討する)

建築家・松村正恒と八幡浜

八幡浜市役所にはかつて松村正恒(1913～1993年)という建築家がいた。1950年代を中心に、同市の職員として学校建築や病院関連施設などの秀作を世に送り出した人物である。

彼は1913年に愛媛県大洲市の旧家に生まれ、1935年に武蔵高等工科学学校(現在の東京都市大学)を卒業した。その後、東京で土浦亀城建築設計事務所に勤務し、中国の新京にも派遣された。1941年には農地開発営団へ移り、日本海側の貧しい農村の調査に従事した。戦後は故郷に戻って1947年に八幡浜市役所へ奉職し、1960年に退職するまでの13年間に、およそ30数物件の公共建築を設計した。

学校建築の主なもの、愛宕中学校(1948年)、松蔭小学校(1949年)、八代中学校(1949年)、川之内小学校(1950年)、長谷小学校(1953年)、江戸岡小学校(1953年)、神山小学校(1957年)、日土小学校(1958年)、白浜小学校(1960年)など。病院関連施設は、八幡浜総合病院東病棟(1952年)、同結核病棟(1953年)、同伝染病棟(1954年)、同看護婦宿舎(1955年)、同本館(1960年)など。また他の種類の建物では、図書館(1951年)、川上公民館(1955年)、中津川公民館(1956年)。さらに個人的に依頼されて、大洲市の新谷中学校(1955年)と明浜町の狩江小学校(1960年)も設計した。

その多くは木造でありながら近代的美学と卓越した建築計画に基づいており、いくつかの建物は建築雑誌や専門書で大きく紹介された。中でも新谷中学校と日土小学校は、当時東京大学助教授だった内田祥哉によって高く評価され、松村の名前は広く世に知られるようになった。そして1960年には、『文藝春秋』5月号で前川國男や丹下健三と並び、日本を代表する10人の建築家の一人に選ばれた。

その後、これらの建物のうちの多くは残念ながら建て替えられるなどして消えていったが、かつて八幡浜市は、松村が設計した多くの美しい木造モダニズム建築が市民生活を支える町だったのである。

松村は社会正義への熱い思いをもった人物であった。学生時代には弱者救済の社会活動にも参加し、農地開発営団勤務時代には貧しい農村の生活を抒情的文章で記録した。また、彼はたいへんな勉強家で英語力があり、学生時代から建築雑誌で翻訳の仕事に携わった。八幡浜市役所に勤めてからも海外の建築雑誌を定期購読し、大洲から通勤する汽車の中で読みふけた。地方にしながら世界とつながっていたのである。機能的でしかも美しいデザインの背後には、彼のそのような気質と努力が隠れている。

松村が八幡浜市役所で設計した建物には、民主化された戦後日本の空気を象徴するような開放感や明るさが漂っている。まさに旧来の公共建築の権威性を打ち破る実験だったといえるだろう。

それを助けたのが、1947年から2期にわたり八幡浜市長をつとめ、名市長との誉れ高い菊池清治(1886～1982年)だ。彼は八幡浜出身で東京帝国大学物理学科を卒業し、戦前に広島高等学校長などを歴任した教育者であり、地方自治にも高い志をもつ人物であった。そして、戦後間もない時期の厳しい財政事情にもかかわらず、学校、病院、母子寮、養老院等の公共施設を建設して八幡浜市のインフラ整備を敢行し、その多くの設計を松村に任せただ。松村は敬意をもって菊池に接し、また菊池は松村の斬新な計画内容を評価して、古い体質の教育委員会や市議会やPTAなどによる批判から彼を守った。優れた為政者と優れた建築家の出会いが、地方都市における公共建築の実験を成功させたのである。

松村は1960年に市役所を辞め、松山市で自分の設計事務所を主宰した。多くの建物を設計するとともに、ロータリークラブでの社会奉仕活動や日本銀行松山支店の保存運動にも力を注ぎ、1993年に亡くなるまで現役を貫いた。

現在八幡浜市には、松村正恒の設計した5つの公共建築が残っている。川之内小学校、図書館、長谷小学校、中津川自治公民館、日土小学校である。この冊子を手がかりにそれらの建物を訪れ、松村正恒の思想とモダニズム建築の可能性について思いを馳せていただきたい。

略 歴

- 1913(大正 2)年 愛媛県大洲市新谷町に生まれる。
1925(大正14)年 大洲中学校入学。
大正デモクラシーの自由な教育を受ける。
1932(昭和 7)年 武蔵高等工科学校入学。蔵田周忠の薫陶を受ける。
1935(昭和10)年 武蔵高等工科学校卒業。
土浦亀城建築設計事務所に入所。
1940(昭和15)年 土浦亀城建築設計事務所を退所。
1941(昭和16)年 農地開発営団に勤務。
新潟に配属され日本海側の農村を調査。
1947(昭和22)年 八幡浜市役所土木課建築係に勤務。
以降13年間、市の公共建築の設計を行う。
1960(昭和35)年 『文藝春秋』の「建築家ベストテンー日本の10人」に
選ばれる。
八幡浜市役所を退職し松村正恒建築設計事務所を
松山市に開設。
1961(昭和36)年 松山東ロータリークラブ創立同時入会。
1963(昭和38)年 狂言(大蔵流)を始める。
1990(平成 2)年 新日本建築家協会終身正会員1号に選ばれる。
1993(平成 5)年 2月28日没(享年81歳)
2015(平成27)年 八幡浜市名誉市民

主な著書

- 『特集・新託児所建築』『国際建築』1939年9月号
『四国の民家』(共著、日本建築学会四国支部、1983年)
『愛媛の近代洋風建築』(共著、愛媛県文化振興財団、1983年)
『素描・松村正恒』(宮内嘉久編集事務所編、建築家会館、1992年)
『無級建築士自筆年譜』(住まいの図書館出版局、1994年)
『老建築家の歩んだ道』(発行者:松村妙子、1995年)

日土小学校にて(1960年)



日土小学校



東・中・新西校舎の北側全景

日土小学校は1875年に日土地区の新堂に開設された啓蒙学校を起源とし、その後近隣の学校との合併や改称などをくり返して1909年に日土尋常小学校となり、1910年、現在の地に校舎が新築された。それは「33間の校舎」と呼ばれ、現在と同様に喜木川に沿う1棟の大きな木造校舎であった。1937年に敷地の西端に講堂が、1949年には敷地の東側に日土中学校が建設されて運動場がコの字型に囲まれた。

そして1955年に西校舎が講堂の東隣に建てられた後に中央の校舎を順次解体し、松村正恒の設計によって、1956年に中校舎が、1958年に東校舎が完成したのである。それらは、普通教室と廊下を切り離したクラスター型の教室配置や川との心地よい空間性などが評価され、当時

東大助教授だった内田祥哉などから絶賛された。

その後、近代建築再評価の動きの中で再び注目され、1999年にドコモ・ジャパンによって日本を代表する20の近代建築のひとつに選ばれた。木造と鉄骨トラスなどを組み合わせたハイブリッド構造や、欧米の近代建築に対する独自の解釈によるデザインといった観点が新たな評価の視点に加わり、歴史的価値と現代的価値を併せもつ建物として、保存・再生し小学校として使い続けることが決定された。

改修工事は2009年に無事完了し、新築の建物にはない複数の時間性をもつ最先端の学習環境へと甦り、2012年には戦後建築としては4番目となる国の重要文化財に指定された。



東・中校舎の南側全景



東校舎の昇降口

クラスター型教室配置により、教室とは中庭（写真右手）を介して切り離された昇降口である。光に満ち、開放感溢れる空間だ。下駄箱の中仕切りや脚などの細部まで繊細にデザインされている。

東校舎の普通教室(改修後は家庭科室)

川側の外壁は柱から切り離されたカーテンウォールになっており、袖壁も垂れ壁もなく開放的。中央の鉄筋の筋交いは新しくして十分な耐震性能をもたせた。上部の窓は型ガラスになっており、眩しさへの配慮がある。





東校舎の図書室

色ガラスのはいった引き戸を介して、図書室とベランダと川と山が一体になる。見所の多い日土小学校の中でも、最も手の込んだデザインの空間といえる。銀紙貼りの天井、手斧掛けの梁、障子のはいった窓、竹を輪切りにして星座を描いた壁、床柱のように無塗装のままにされた中央の柱など、複雑な意匠が試みられている。

図書室のベランダ

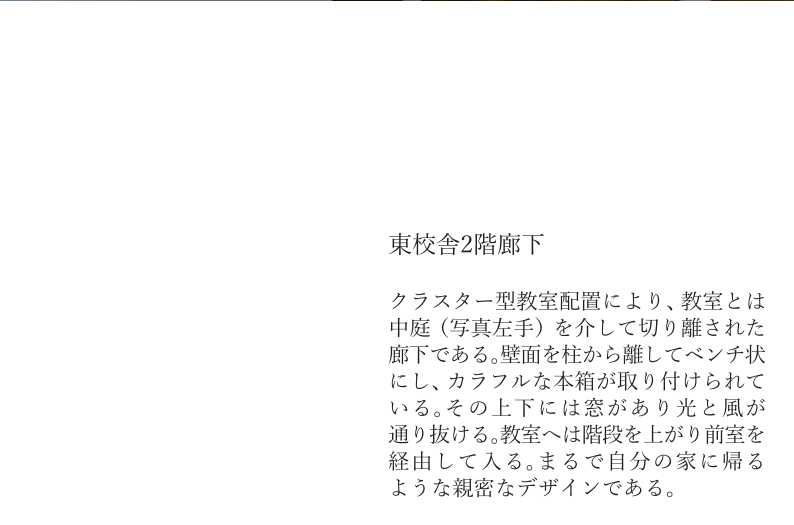
図書室の先には川に身を乗り出すようなベランダがある。傾斜した丸柱と深い軒に覆われた空間は、環境と一体化した学習環境を意図した松村の設計思想の象徴といえる。





東校舎階段

ゆったりとした勾配で上下階を結ぶ階段は松村デザインの真骨頂である。連続する窓に囲まれた明るい空間は、むしろ階の存在を消す装置ともいえる。中央に白線が描かれた踏み板は建設当初のものである。



東校舎2階廊下

クラスター型教室配置により、教室とは中庭（写真左手）を介して切り離された廊下である。壁面を柱から離してベンチ状にし、カラフルな本箱が取り付けられている。その上下には窓があり光と風が通り抜ける。教室へは階段を上がり前室を経由して入る。まるで自分の家に帰るような親密なデザインである。



改修・改築計画のポイント

東校舎

文化財としての価値を尊重し、基本的に当初の状態に戻す。



喜木川側の東校舎外観（左：竣工時、右：改修後）

耐震補強をおこない、現行の建築基準法以上の耐震性能を確保する。



補強工事の様子



ブレースを二重に補強

中校舎

中校舎の職員室まわりは改修し、運動場への見通しを確保する。



職員室からの運動場の眺め（左：改修前、右：改修後）



ハイスайдライトからの光が注ぐ職員室前廊下

新西校舎

4つの普通教室を確保するために、新西校舎を改築する。



喜木川上流より新西校舎南側全景



2階の開放的な普通教室



機能性を持たせた開放的な階段

川之内小学校



南面全景(正面) 中央の入口部分で対称性が崩されていることがわかる。

松村正恒が八幡浜市で設計した建物のうち現存する最も古いもので、1950年の竣工である。1875年に啓蒙学校として創立され、現在の敷地には1933年に千丈尋常高等小学校川之内分教場として移転した。1947年に川之内小学校と改称され、1950年に松村の設計した校舎が建設されて大切に使われてきたが、2015年3月に閉校となった。

1学年1クラスで外部廊下方式の単純な平面構成である。木造2階建て、縦羽目板張り、屋根は寄せ棟の瓦葺きだ。

正面から見ると基本的には左右対称だが、中央のスパンの片側に玄関

を寄せるなど、微妙なバランスの外観である。三角形の庇は竣工時にはなく、学校の権威的な正面性を消そうとした松村の意図が感じられる。

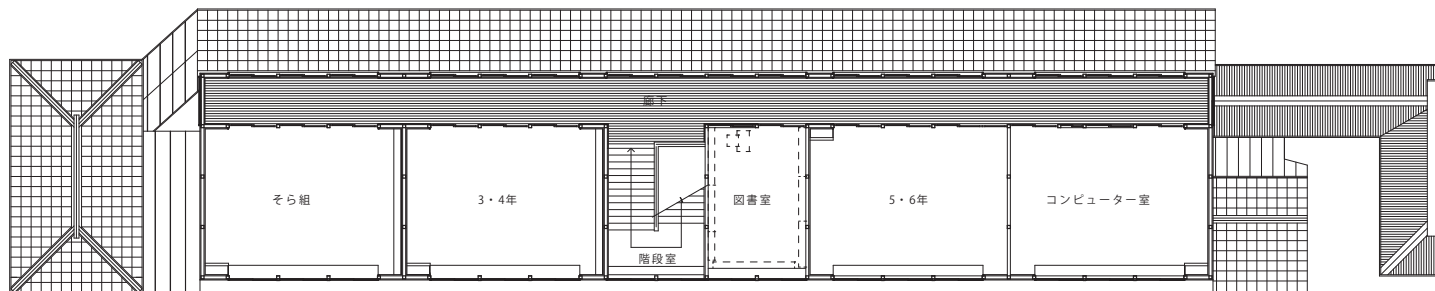
裏側の廊下が特徴的で、その高い天井と土間の低い屋根との間にガラスを嵌め、廊下と教室に光を取り入れている。つまり、日土小学校において完成する教室への両面採光の先がけといえる。

水平に連続する窓、垂れ壁のない開口部、下見板張りではなくフラットな縦羽目板張りの外壁など、伝統的な木造校舎から近代建築的な意匠へと脱皮しようとする松村の意図が各所にある。

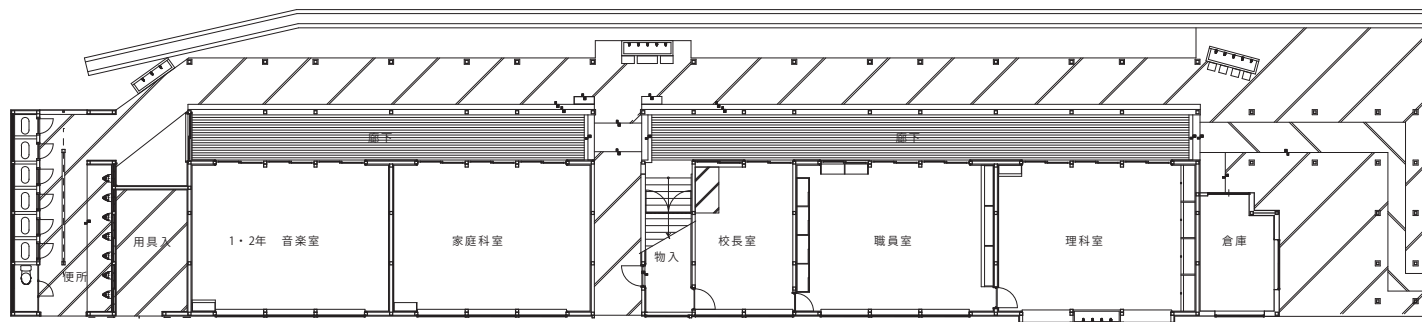


2階廊下

旧来の木造校舎のデザインではあるが、垂れ壁をなくし多くの光を取り入れようとする意図は明らかである。



2階平面図



1階平面図





北東側からの外観

寄せ棟屋根とガラス窓の対比が面白い。



北面廊下外観

昇降口上部の水平連続窓によって2階が浮いて見える。



北面廊下 屋根の隙間から教室へ光を取り入れる工夫がよくわかる。



階段と南北の通り抜け通路 階段下を利用した機能的なデザインである。

長谷小学校



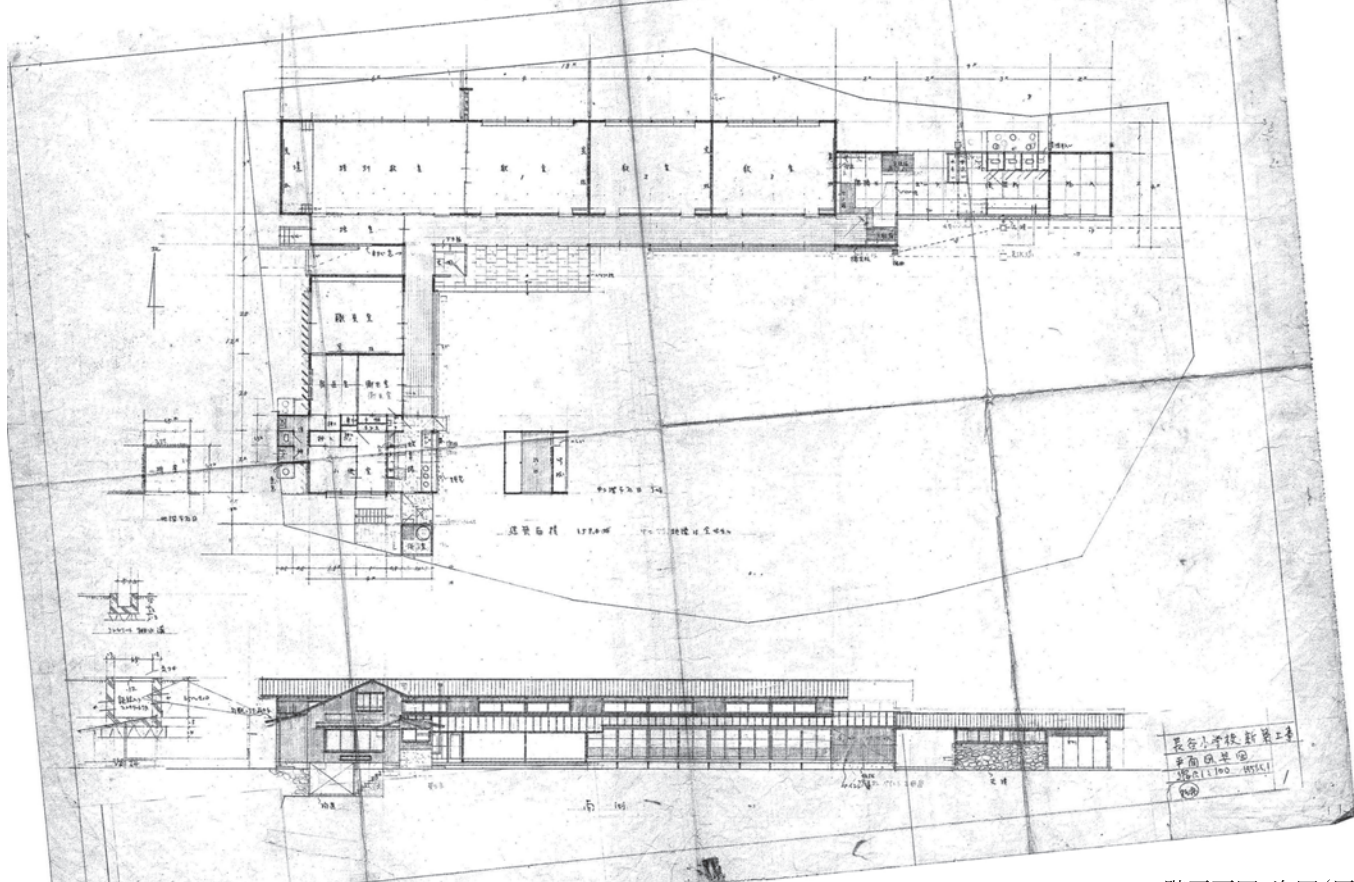
西側全景

敷地は宇和海や南予の山並みが一望できる標高約 300 メートルの高地にある。創立は 1875 年で、長谷寺境内に有志児童を集め住職が読み書きを教えたことに始まっている。周囲の農家の子弟のために作られた学校であり、校名と場所は何度か変わり、1953 年に松村正恒の設計した校舎が現在の地に建設された。その後大切に使われてきたが、2013 年 3 月に閉校となった。

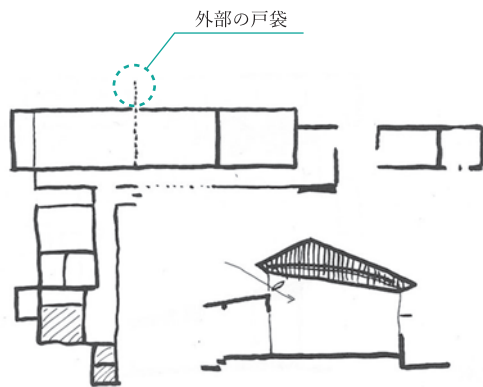
木造平屋の建物で L 字型の平面構成である。3 つの教室と 1 つの特別

教室、職員室、宿直室、小使室などからなるきわめて小さな学校だ。

小さな建物だが工夫は多い。片流れ天井の教室には高窓から光が入り、一種の両面採光となっている。またそこには横軸回転式ルーバーが設けられ、光の量を制御できた。また、特別教室と普通教室の間の間仕切りが校舎の外へ引き出せるようになっていて、一体化すると講堂としても使うことができた。その背後には、学校は地域の集会所でもあるべきだという松村の思いがあった。



1階平面図・姿図(原図)



松村が描いた平面と断面のイラスト(「素描・松村正恒」)



特別教室と普通教室の間仕切り(三枚引き戸)



戸袋に間仕切りを引き込んだ状態

旧図書館



東側全景



建設当初 新川の対岸から

1951年に八幡浜市の新川沿いに松村正恒の設計による旧市立図書館が建てられた。戦後の教育改革と連動した図書館法公布の翌年である。その後敷地の一部が郵便局の建設用地となり1954年に市内本町に移築され、さらに1971年の市民会館の建設に伴い現在の片山町へ移築された。そして1991年に新しい市民図書館の完成とともに閉館した。

1954年の移築に際しては、建物の平面構成を左右反転させるという珍しい改変が行われた。敷地形状と書庫増築を考慮した判断だと思われる。片山町への移築ではさらに1階部分の増築などが行われた。

外壁は松村の作品の中では初めてのラスモルタルの平滑な仕上げである。1950年に施行された建築基準法が求める防火性能への対応と思われる。その他、2階バルコニーの開放的な水平連続窓、日光を制御する回転式ルーバー等の環境工学的配慮、木造による明快な構造計画、階段まわりの細やかなディテールなど、これ以降の彼の設計思想の基本が現れている。

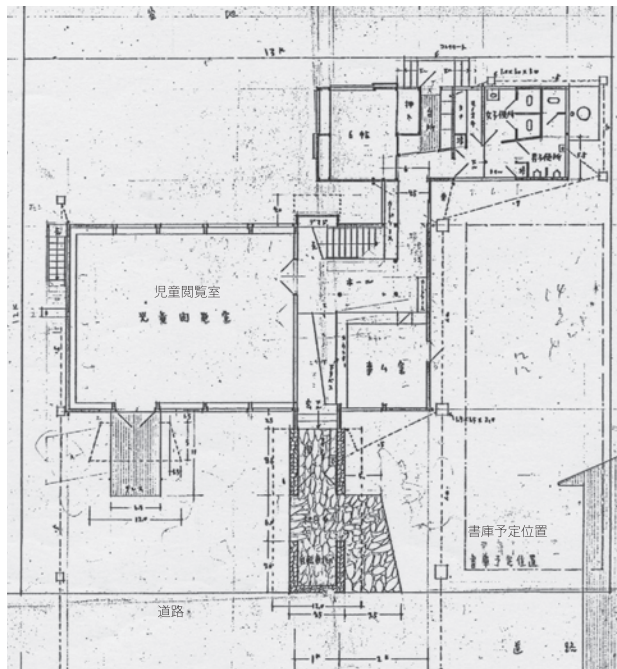
度重なる変更にもかかわらず外観と内部意匠は建設当初の姿を留めており、日土小学校以外で松村のデザインを知ることのできるきわめて貴重な建物である。

下図のうち、左は1951年の建設時の図面、右は1954年の移転工事のための図面である。新しい敷地では、平面形を反転しないと書庫を増築する場所が確保できなかったことがよくわかる。

移築に際しては、架構や下地に関わる部材や建具などはそのまま使い、左右が逆転する階段や玄関回りなどの設計図が新たに

描かれている。書庫の基本設計図も残っているが、平面形が5m×14.5mのコンクリート造のボックスで、内部は吹抜けを挟んだ4層の空間である。もし実現していれば、木造の本体との対比が面白い建物になっていたと思われる。

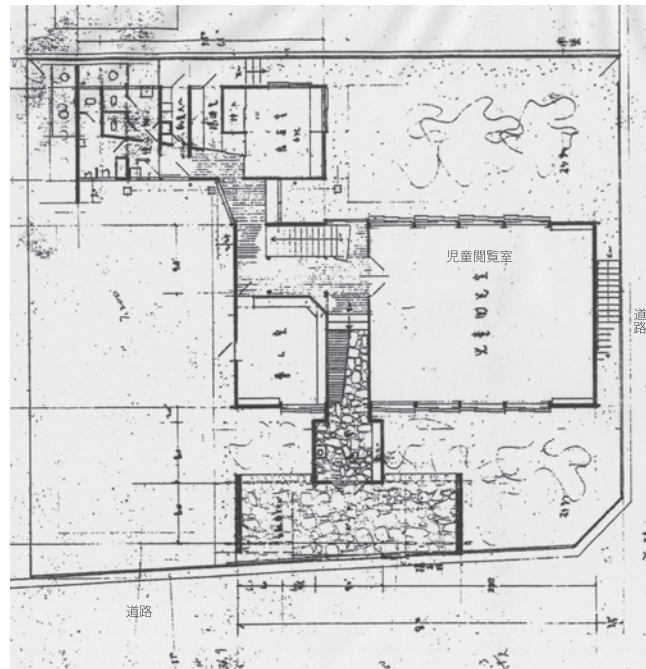
1951年新築工事原図



1951年の実施設計図の1階平面図。1階平面図の中央部分が本館（児童閲覧室と事務室）、その奥が別館。右の空地が書庫予定位置である。

図面上が北。道路は南側の前面道路のみ。さらにその南に川があった。

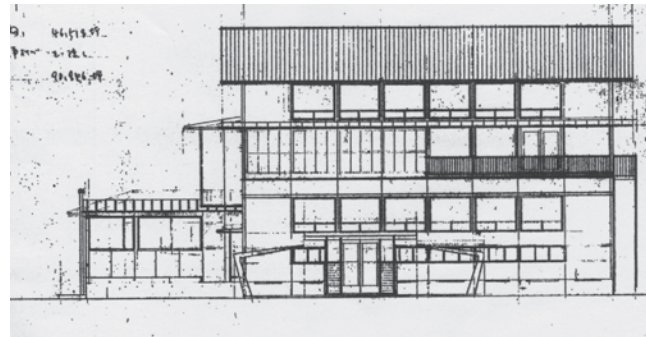
1954年移転工事原図



1954年の移転工事の1階平面図。図面右が北。新しい敷地は角地である。



1951年の実施設計図の正面図。

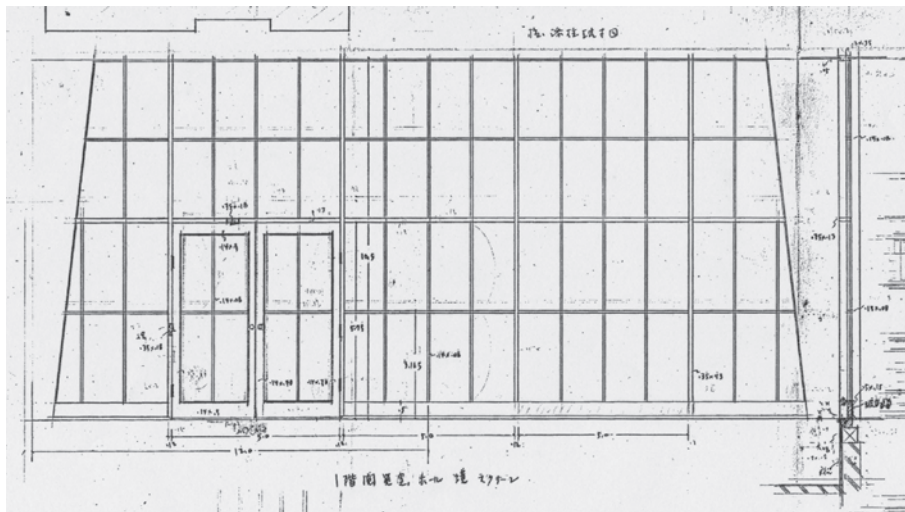


1954年の移転工事の正面図。左右が反転したことがよくわかる。

松村はどの建物でも階段には細やかなデザインを行っているが、ここでも、踏み板を三角形断面にする、1段目を台形の広い面とする、2階の手摺部分にベンチを設け休憩スペースを設けるといった工夫がある。さらに階段室と閲覧室の境界には美しい割り付けのガラススクリーンが設けてあり、読書のための明るく開放的な空間が生まれている。



移築後の建物の2階閲覧室と階段室の間のガラススクリーン(2005年8月5日撮影)



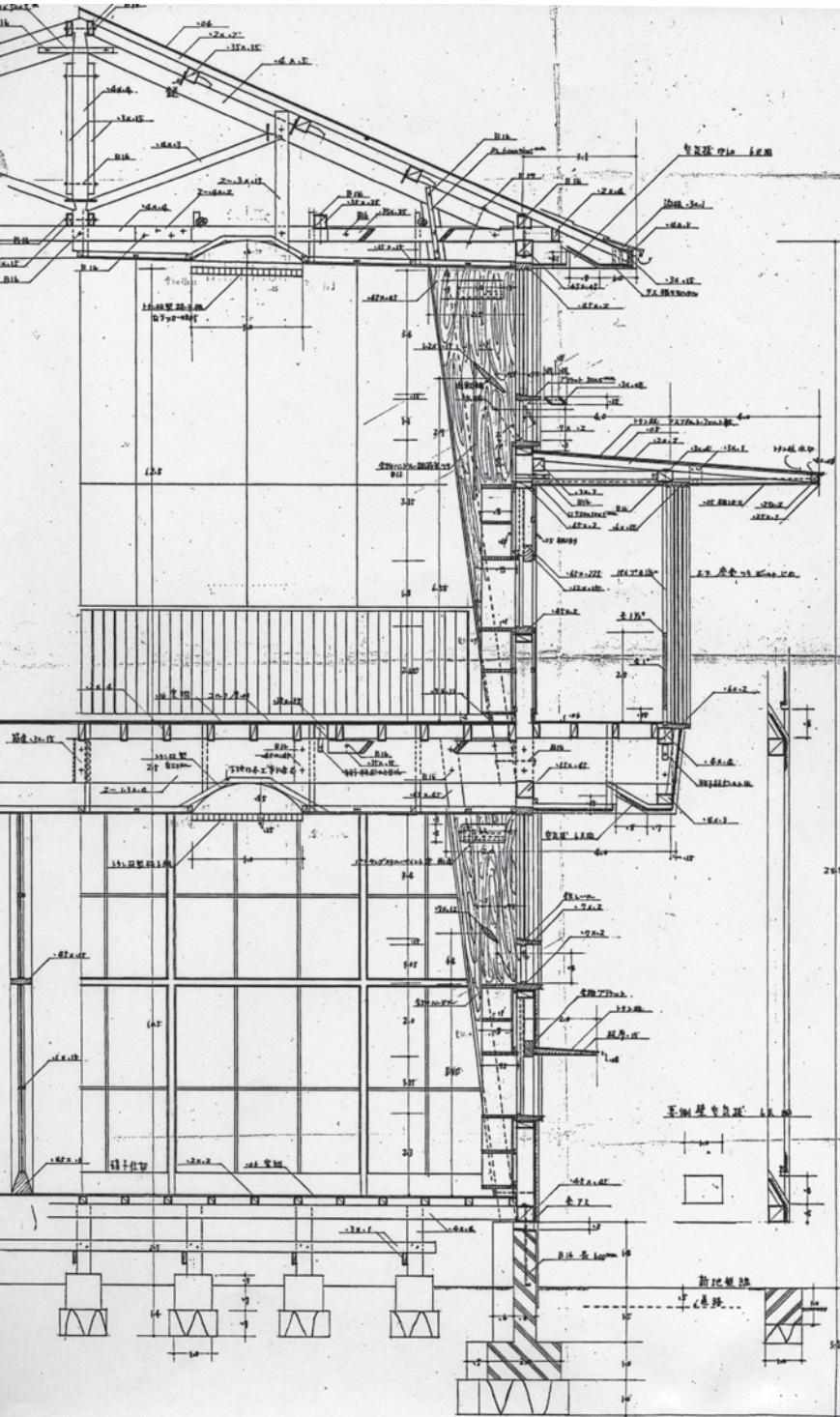
1階閲覧室と玄関ホール間のガラススクリーン



2階踊り場のベンチ



階段室ガラススクリーン



ここに示すのは原設計図の中の矩計図である。実現した建物とは若干違うが、松村の設計思想がよくわかるので掲載する。それによれば、1、2階の閲覧室を無柱の大空間とするために柱位置に斜材を加え、梁間方向の断面を小屋組と柱組を一体にした2ピンアーチで構成していたことがよくわかる。さらに、その結果生まれる三角形の袖壁部分の上部を利用し、窓からの光を調整する回転式ルーバーを取り付け、ホッパー窓や固定式ルーバーとともに、空間構成、構造計画、環境工学的配慮を同時に満たす仕掛けを生み出している。これ以降の建物でさらに進化する外装デザインの原点といえる。



西側開口部

中津川自治公民館



北西側外観

八幡浜市中心部から南西に6キロほど山間部にはいった中津川地区の公民館である。戦後、八幡浜市も近隣町村との合併にともない各地区の公民館整備を行ったが、この建物もその一環として1956年に松村正恒の設計で建設された。

川沿いに建つ木造2階建ての建物である。1階は約半分が近隣農家の精米や蜜柑の選別作業の場所で、残りが玄関、炊事室、便所などになっている。「電話室」もあり（現在は放送室）、かつては地区の代表電話であったと想像される。2階には広間（5間×6間）と舞台を兼ねた和室とがあり、現在もこの地区の集会施設として大切に使われている。

切妻屋根の本体に片流れや切妻の下屋が多く取り付いて、複雑な

外観をしている。外壁は堅羽目板張り・ペンキ塗り、屋根は厚瓦スレート葺きである。現在、外壁は淡い紅色をしているが、当初の色に準じて塗り替えられてきたと考えられる。

2階の広間と舞台部分の間、および舞台部分の中央には建具（現在は撤去されている）があり、閉じると舞台部分に8畳間が2つ生まれるようになっていた。集会所としてのフレキシビリティを高めるための松村らしい工夫である。

全体として日土小学校と同じ時期とは思にくいデザインではあるが、松村がそれまでに手にしたモチーフを組み合わせ、短い期間で即興的に設計した建物といえるだろう。



2階広間

正面の建具を開けると舞台が現れる(左)。
舞台部分は床の間もある和室仕様になっていて、広間との間の建具を閉めると座敷として使うことができる(右)。



北側外観

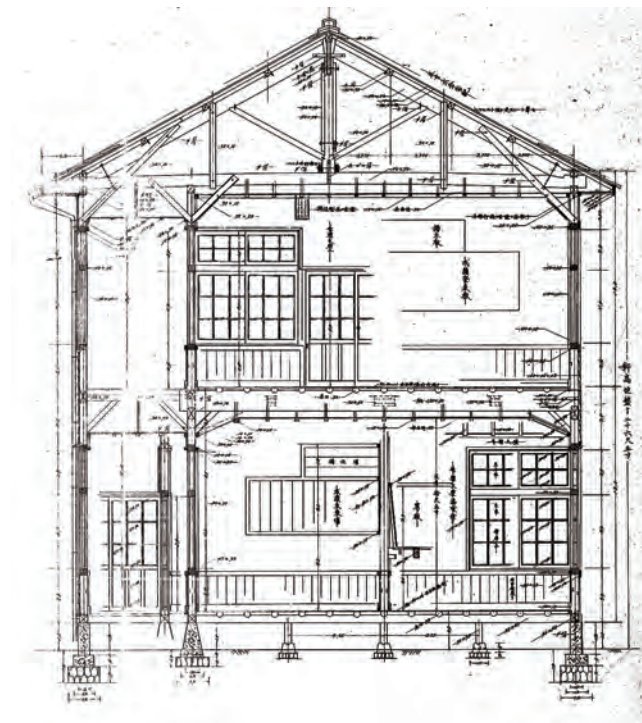
北側は 2 階の廊下部分が跳ね出しており、1 階がピロティになっている。廊下部分の屋根は低く、その上のトップサイドライトから広間に光を取り込んでいる。いくつかの小学校で採用してきた両面採光の断面がここでも使われており興味深い。

階段室

ゆったりした勾配の階段である。2 階のコーナー部には花台があり、学校建築のモチーフがここでも使われている。



日土東小学校



建設中の写真

日土小学校より山間へ上ること20分あまり。日土小学校の旧西校舎の設計者である木村保一の作。2014年の閉校まで子供たちだけでなく地域住民のつどいの場でもあった。

閉校後、当市の建築設計の先駆者である木村保一氏の学校建築などを、地域住民の財産として調査・顕彰するため、「技手 木村保一 顕彰会」が地域住民の手で設立され、新しい利活用が始まっている。(杉山博司)

旧白石和太郎洋館



この洋館が建つ保内町琴平の周辺は、かつて保内町川之石地区が近代に栄えた頃、企業家たちの屋敷街でもあった場所である。鉱山経営で名を馳せた白石和太郎（慶応4～大正4年）が作らせたといわれる明治洋風建築である。

洋小屋（トラス）組み寄棟屋根の妻側となる正面の意匠は、西洋建築らしい左右対称の構えで、玄関庇や一階と二階の縦長窓に見られるペディメントの漆喰装飾には、凝った左官の技が認められる。小規模な建物ではあるが、県内では他に無い特徴的な意匠性に優れ、地域の先進性が伺える建築である。（「八幡浜の文化財」より引用）

菊池清治邸



伊予の大阪と称された八幡浜にあって、市中心部浜之町にある市を代表する商家建築である。主屋は町家形式であり、左側4間半と右側3間半の2棟を土間でつないでいる。

国指定重要文化財となった日土小学校を設計した松村正恒を旧態然とした体制から常に擁護し続けた名誉市民菊池清治の生家である。

松村正恒 建築作品(現存せず)



八代中学校

1949年竣工

まだ旧来の木造校舎のイメージを引きずっているが、2階の一部に設けられたバルコニー、ゆったりとした階段室、中央部でずらされた平面構成など、後の松村独自のデザインへつながる試みがある。



八幡浜総合病院東病棟

1952年竣工

松村が設計した最初の病院関連施設。大きな開口部をもつ外装デザインが特徴で、そこに遮光庇、ホッパー窓、花台、上げ下げ式遮光パネルなどが取り付けられ、外部との関係を調整する装置となっている。



江戸岡小学校

1953年竣工(管理棟と教室棟3棟)

1955年竣工(特別教室棟)

八幡浜市中心部の大規模校。普通教室棟の断面構成は「両面採光の決定版」と松村自身と呼んだ自信作だ。音楽室や理科室のある特別教室棟も見事なデザイン。病院関連施設で見出したモチーフなども自由自在に組み合わせた秀作である。



八幡浜総合病院結核病棟

1953年竣工

病棟の建物から飛び出したガラスばりの大きな階段室と洗面所が印象的。外装は東病棟より簡素化されたが、汎用性のあるディテールになった。病棟の室内は建具や家具が繊細にデザインされている。



神山小学校

1957年竣工

松村が設計した数少ないコンクリート造の学校建築。ただし教室の内装は木造であった。中庭と廊下を介して教室を交互に並べた平面構成が特徴的。穴のあいたアーチ状のコンクリート庇から漏れる光が外観にアクセントを添えた。



八幡浜総合病院伝染病棟

1954年竣工

水平連続窓と薄い屋根が印象的。1階のビロティに耐震壁はなく、すべて丸鋼ブレースに置き換えられている。木造のフレームに丸鋼ブレースを組み合わせるハイブリッド構造を本格的に採用した最初の建物である。



川上公民館

1955年竣工

1955年に八幡浜市へ合併された川上地区に建設された公民館。1、2階がコンクリート造、3階が木造で切妻屋根という混構造の建物である。天井の高い講堂や36畳敷きの広間などがあった。

概要

日土小学校	愛媛県八幡浜市日土町2-851
1956年	中校舎落成
1958年	東校舎落成
2007年	中・東校舎八幡浜市有形文化財に指定
2009年	中・東・新西校舎改修改築
2010年	第6回木の建築大賞
2012年	国重要文化財に指定
	日本建築学会業績賞
	ワールド・モニュメント財団 / ノール モダニズム賞

川之内小学校	愛媛県八幡浜市川之内1-182
1950年	竣工
2015年	閉校

長谷小学校	愛媛県八幡浜市高野地716
1953年	竣工
2013年	閉校

旧図書館	愛媛県八幡浜市94-20
1951年	竣工

中津川自治公民館	愛媛県八幡浜市中津川1-512
1956年	竣工

日土東小学校	愛媛県八幡浜市日土町6-961
1951年	竣工
2014年	閉校

旧白石和太郎洋館	愛媛県八幡浜市保内町川之石2-9-10
明治末期頃	竣工

菊池清治邸	愛媛県八幡浜市183
江戸末期～明治初期頃	竣工

写真クレジット

北村 徹 : 表紙、P.2-1段・2段・3段左.5.6.8.10.11-1段左・2段・3段
12.13.15.16.17.19.21右上下.22.23.24

古川 泰造 : P.9左、裏表紙

渡辺 義雄 : P.4

松隈 章 : P.9右

和田 耕一 : P.11-1段右.18左

花田 佳明 : P.18右.21左

二宮 一平 : P.2-3段右・4段左.25.26上

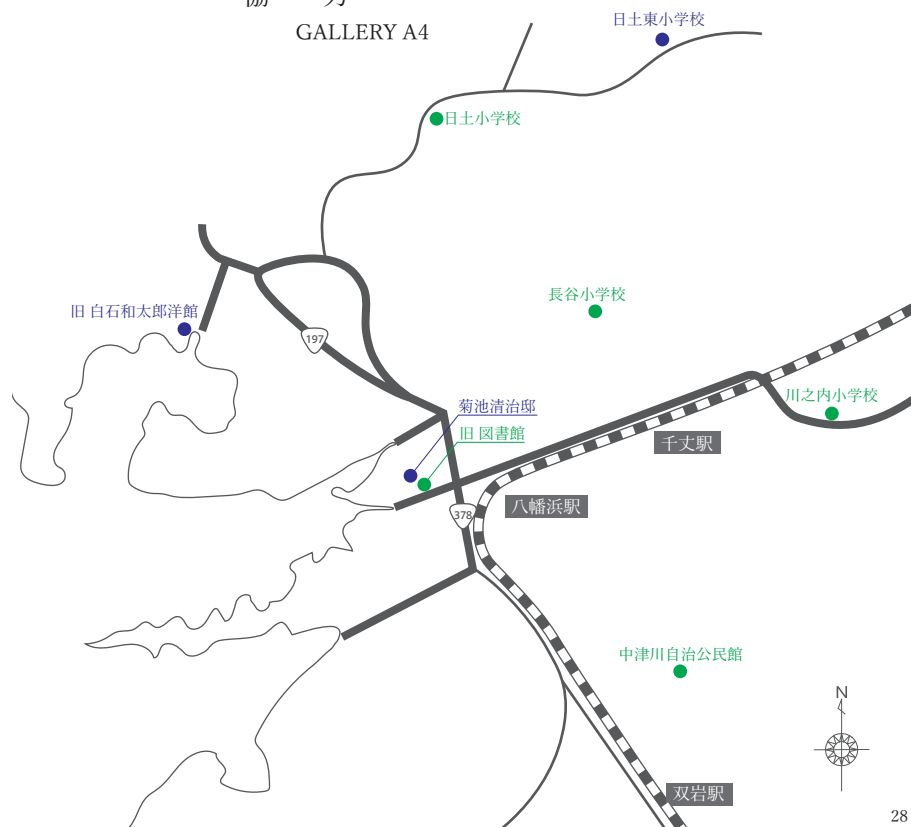
日本建築学会蔵(松村家旧蔵) : P.27八代中学校以外

解説文

花田 佳明

協力

GALLERY A4





発行：八幡浜市教育委員会

制作：公益社団法人 日本建築家協会 四国支部

問い合わせ：八幡浜市教育委員会 生涯学習課 0894-36-3040

<http://www.city.yawatahama.ehime.jp>